

夜長(よなが)

「秋の夜長」といわれ、冬よりも秋に「夜長」を感じるのは日本人の感性ゆえでしょう。

秋分に昼と夜の長さが同じになり、秋から冬にかけて夜が長くなっていく中で、その時間をどのように使おうかという思惟^{しゐ}が感じられます。夜の静けさと闇を畏怖する時代に感じた夜長と、現代の感覚の違いはありますが、物思いにふける秋は、今も昔も変わりません。

夏至の頃の「夏の夜」の短さに比べ、10月は日没から日の出まで2時間ほど夜が長くなります。夜更かしをして、読書や映画鑑賞、お酒を飲みながら語らうなど、一年で一番夜が長い冬至へ向かう季節のひとつときを楽しみます。「夜なべ」も秋の季語となっています。

子どもたちの学びにも、すぐに答えを求めず、じっくり考える時間が大切です。

《お知らせ》

- ・漢字能力検定 10月24日(土)実施
 - ・思考力検定 11月7日(土)実施
- 2026年11月のお休み

2026年 11月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 休	4 休	5	6	7
8	9	10	11 休	12	13	14
15	16	17	18 休	19	20	21
22	23 休	24	25 休	26	27	28
29 休	30 休					

※水曜日、祝日、第5週はお休みです。

- ・授業の振替有効期間は2か月間です。
- ・11月3日(水)文化の日、23日(月)勤労感謝の日



間違いから育つ力

子どもが課題に取り組むとき、最初から正しくできるとは限りません。むしろ、間違えたときにこそ、「なぜだろう」「どこが違うのかな」と、自分の考えを振り返る機会が生まれます。

積み木でも、思った形にならなかったとき、すぐに正解を教えるのではなく、見直ししながら、自分なりに答えを探していきます。

大切なのは、間違えないことではなく、間違いをきっかけに考え直す経験です。「間違えたら終わり」ではなく、「もう一度考えてみよう」という気持ちが次の挑戦につながります。

正解だけでなく、試行錯誤を大切にしながら、子どもたちの「興味をもつ力」、「考え抜く力」を育てていきたいと考えています。